

## へロデの罪

マタイによる福音書一四章一〜12節

(日)

へロデはヨハネを殺そうと思ったが、群衆を恐れた。人々がヨハネを預言者と認めていたからである。(5)

へロデは自分の兄の妻へロディアと結婚するために自分の妻と離婚し、兄から彼女を奪うという罪を犯しました。バプテスマのヨハネは敢然とへロデの罪を非難し、へロデの恨みをかけて投獄されてしまいました。そのようなとき、へロデの誕生日の宴席で妻の娘が見事な踊りを見せ、その褒美にヨハネの首を求めたところ、へロデは心を痛めながらもヨハネを処刑してしまいました。彼はわずかに残っていた良心の声を抹殺するかのようにして、決定的な罪を犯したのです。神を恐れない人間の罪ある姿がここに表されています。彼は真の王を恐れず、自分がこの世の王となってしまったのです。そして心の中に語りかけてくる神の声を閉め出し、自分の欲望の声に従いました。心の中に語りかけてくる神の声を消し去ることなく、その御声に耳を傾ける私たちでありたいと願います。